

九州大学農学研究院の吉国通庸教授の来所・ 講演

2010年5月20日

九州大学農学研究院動物資源科学部門アクアフィールド科学講座の吉国通庸教授が、当センターを来所・見学された機会に講演をお願いしました。講演は、「棘皮動物の生殖を司る神経ペプチド」というタイトルでした。同教授は、最近評判のマナマコの放卵・放精を誘発する神経ホルモン「クビフリン」でも著名です。さらに詳しい情報は以下のHPを参照下さい。

<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/asweb/jikkensho/home.html>



講演のオープニング

講演開催のお世話をお願いした沖縄県水産海洋研究センター
南主任研究員(奥中央)による吉国教授(その左)の紹介で講演は始まりました。



吉国教授の講演の始まり。
1枚目のスライドは、興奮するマナマコの写真から。



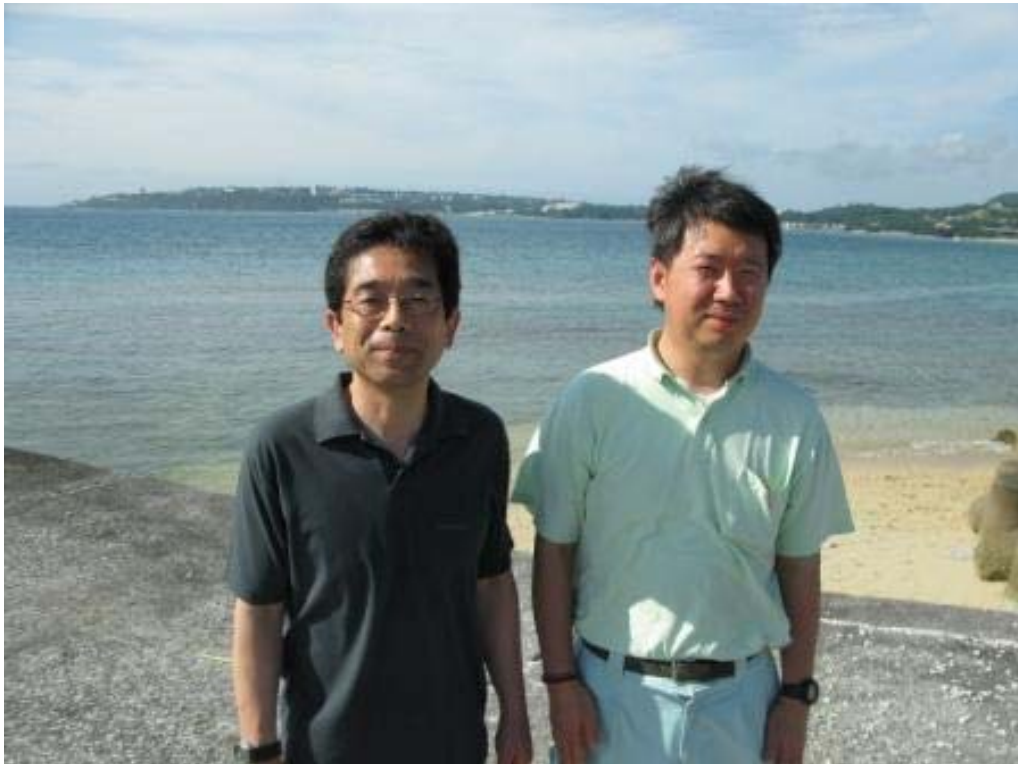
卵細胞の最終成熟と受精の関係の説明
これ以降、分子生物学の世界へ。
放卵放精シーンなどの動画を交えて、わかりやすく説明して頂きました。



**吉国教授の熱弁に聞き入る当センター職員ほかの皆さん。
普及センター北部駐在の職員や琉大実験所のポスドクの方も聴講されました。**



質疑の様子。質問に熱心に答える吉国教授と聞き入る聴講の皆さん。



栽せ地先の海で。吉国教授(左)と南主任研究員のツーショット。



ハマフエフキ種苗の説明を聞く吉国教授。



ヤイトハタの種苗生産水槽で。



ヤイトハタの親魚水槽で。大きな親魚に驚きの様子。



タカセガイの稚貝に見入る。頭の中には、アミノ酸配列が……。 ???



シラヒゲウニの種苗生産過程の説明



シラヒゲウニの中間育成水槽にて。

興味深いご講演ありがとうございました。
大変良い刺激になりました。

再び機会がありましたら、ご講演をお願いします。